

【サンプル】動物みたいに性欲が強くなった変態ムラムラ女性たちにいっぱい搾り取られちゃう話。

「けほっ、けほっ……」

「牡丹、大丈夫？」

花粉症かな……」

「まあ、そんなところね……けほっ……。

あんたも気を付けなさい。いつ来るかわかんないんだから」

鼻をズビズビと鳴らして、嶋原牡丹は目を擦った。

隣を歩く同級生、岡嶋泰正は、彼女よりも身長が低く、一見すると女の子のようにも見える、中性的な容姿をしていた。

二人は幼馴染。家が隣同士ということで、こうして毎朝一緒に登校している。

「なんとなくだけど、いつもの花粉症と違うのよね……。

放課後にでも病院に行こうかしら」

「絶対そうした方がいいよ。

二人とも海外だっけ。晩御飯、良ければうちで何か作って、持っていこうか？」

「全く。世話焼きさんなのね。

でも今日に限っては、お願いするわ。けほっ……。

こんな状態じゃ、コンビニに行くことすら億劫なもの……」

そんなこんなで、授業を終えて、放課後。

生徒会の用事があった泰正は、少し遅れて、彼女の家を訪れた。

「牡丹～？」

夕食の前に、喉に効くスープを持ってきたんだけど……。

……牡丹～……？ 寝てるのかな……」

電話をかけようか……と迷っていたところ――。

玄関扉の向こうから、猫の鳴き声が聞こえた。

「あれっ？ 猫なんて飼ってなかったよね……。

牡丹～？ あれっ、鍵開いてる……」

ドアを開くと、牡丹が床に這いつくばっていた。
慌てて駆け寄る。突然の出来事だったので、牡丹の容姿に気付くのが遅れた。

「なっ、なんでっ、ケモ耳が——。
尻尾まで生えてるっ。に、偽物か？ これ……」

——ぐいっ♡

「んにゃっ` !♡♡ にゃお` ~んっ` !!!♡」
「わわっ。びっくりしたっ。
ほんとに生えてるのっ？ 一体何が——」
「こ、腰♡♡
腰叩いへ♡ へ♡♡♡ たいせ、おねが♡♡ ひ♡ ひ !♡♡♡」
「腰っ？♡ 腰を叩けばいいの？♡
こうかな？♡ えいっ♡ えいっ……♡♡♡」
「んにゃあっ` !♡♡ にゃごッ` !♡♡ によッ` !♡♡
によっほお` !♡♡ おっ` ほ♡♡ お` ~んっ` ♡♡♡」

喉がグルグルと鳴っている♡ 嬉しそうだ♡
「もっと♡もっと♡」と求めてくるので、連続して叩くと、どんどんお尻が浮いてくる♡♡
お尻をフリフリしながら、ひたすらにフェロモン誘惑♡ いつもの牡丹の甘い匂いに混じって、独特の酸っぱい匂いが混じっている♡♡

「い、いつまで叩くのっ？♡ これっ♡ い、痛くないのっ？♡」
「にゃおっ`♡ にゃおっ`♡♡ あとしゅこし♡ あとしゅこしい`♡
おっ`——あ♡やっべ♡くるくる♡♡♡ デカいの来る♡♡♡ にゃあんっ`♡
にゃおおお` おおんっ` おんおんおんっ` !♡♡ おほおおんっ` !♡♡♡」

——がくがくがくがくっ♡♡♡ ぶしゃっ♡♡ ぶしゅ——っ` !!!♡♡♡

腰が思いっきり突き上がる♡ とんでもない勢いで、アクメ汁がぶっ放された♡♡
勢いでパンティが捲れ上がったのか、隙間からぶしゅ♡ぶしゅ♡と零れるくさくさの愛液♡
フェロモンたっぷりのおまんこの涎が、あっという間にフローリングに水たまりを作った♡♡

「はあっ♡ はあっ♡ へびっ……♡♡ あ、ありがとお♡ たいせえ……♡♡
んほほっ♡ やっべ~……♡♡ ちょっとすっきりしたあ♡
もう二度と、人間に戻れないんじゃないかって思ったわよ……♡ あっ♡

はっ、恥ずかしいから、あんまり見ないでちょうだい♡
自分で片づけるわっ♡ リビングで待ってて……♡♡」
「あ、うっ、うん……♡♡♡
なにかあったら、すぐ呼んでね……♡」

ドキドキしながら、リビングへと向かう。
どうしていいかわからずに、どこにも座らず、ただうろうろと短い距離を往復した。

やがて、しおらしい態度の牡丹が、とことこ♡とやってきて……。
ソファに座ると、手招きをした。
その仕草はまるで猫。自分で気づいたのか、慌てて手を引っ込める。

「脳の中に、何かが巣くってるわ。
猫の化物にでも犯されたのかしら。それはそれとして、早く座りなさいよ。
そんなとこに突っ立ってないでいいから」
「あ、はは……」

隣に座ると、ツンツ♡つと酸っぱい匂いがした。
蒸れた女性特有のフェロモンだ。牡丹とは長い付き合いになるが、彼女からこんな『性的』な匂いを感じたことはなかった。

牡丹は、自然な動きで、太ももに頭を乗せてくる。たつぷりと汗をかいた頭皮は湿っていて、そこからも甘酸っぱい匂いがした♡

「す、すごいね……。ほんとに耳が生えてる……」
「敏感だから、あまり触らないでちょうだい。
……にしても、なんでこんなことになっちゃったのかしら。
いつもの花粉症と違うから、おかしいと思ったのよ。
喉が変だったのも、あんな……。……あんな、情けない声を出すための、下準備だったのかしらねっ……」

先ほどの猫声を思い出す♡
発情した猫そのものだった。甘ったるい声。音割れしていて、デカくて、聞くたびに脳が揺れる♡ 金玉が震える、誘惑に向いているフェロモン声♡♡♡

制服を着替える余裕もなかったのか、そのままだ。
学校指定の、心許ない布切れは、胸元が窮屈そうだ……♡

「なによ……♡ おっぱい見ちゃって♡
気になるの？♡ お返しに、触らせてあげてもいいわよ？♡」
「えっ、いっ、いいのっ……？♡♡♡

あとで何か、とんでもない要求をされるんじゃないか……」
「あんたね……。人のこと詐欺師みたいに言うんじゃないわよ♡
いいから触りなさいってば♡ ほら♡」
「あっ——♡♡♡♡」

——もにゅっ♡♡♡
ふにゅうっ……♡♡ もにゅるうっ……♡♡♡♡

強引に掴まれた手が、むにゅ♡つと、分厚い脂肪に沈み込んでいく♡♡♡
柔らかくて、ぷにぷにとした弾力が、指にまとわりつく♡
服の上からでもこれなんて、相当なボリュームだ♡
汗でへばりついた制服の上から、手のひらを被せるようにして支えると、お
っぱいの重たさが伝わってきて、緊張してしまう……♡♡♡

「はっ、あっ♡ やっ、柔らかっ` ……♡♡♡
嘘でしょっ……？♡ おっぱいって、こんなに柔らかいの……！？♡♡」
「当たり前じゃない♡ おっぱいよ？♡
赤ちゃんにミルクを与えたり、いっぱい揺らして雄を誘惑したりするため
の、大事な部位なんだから♡
とびっきり柔らかくしたって、損は無いのよ♡ おらっ♡ もっとちゃんと、
コシ入れて揉みなさいっ♡
私が正気を取り戻したら、もう二度と揉むチャンスなんて無いかもしれない
わよっ……？♡♡♡」

人は期間限定の広告に弱い♡
今しか揉めないとされれば、手が止まらなくなる♡♡

「んほっ♡ おおっ♡ すっげえ揉んでくるわこいつ♡ おほっ♡
いいわよその調子、でっ♡ んほお♡ おっぱいたっぷりと堪能しなさい♡
ついでに、頭なんかも撫でてくれちゃったりすると、いいかもしれないわ
ねえ♡
ほっひ♡ おおん来た来たあんっ♡ お耳付近♡ お耳付近敏感だから、くす
ぐりなさい♡ んほお♡ きもひー♡♡ おひゅっ♡ おひゅーっ♡♡♡」

おっぱい揉み揉み♡ ずっしりとした重さに、指が甘えてしまう♡♡♡
弾力がむっちりまとわりつくデカ肉♡ 湿った汗の熱♡♡♡♡

柔らかおっぱい揉み放題タイム♡♡♡ 髪の毛もしっとりしていて、サラサラ
で、頭皮がふわふわだ♡

猫耳の生えている付近は、毛がもさもさになっており、たまらず触れてしま
う♡ 「にゃおんっ♡」 っと、嬉しそうな声がした♡ 目の前の可愛らしい雌
が、どんどん人間じゃなくなっていく♡♡

「にゃほっ♡ にゃほほっ♡♡♡ あーんちあわちえ♡ んほお♡
おっぱい揉み揉みっとなされてちあわちえいっぱいになん♡ おほ♡
あっ——待って♡ おしっこ出ちゃう♡
しっこ！♡ しっこ出る！♡ 助けて！♡ おしっこ漏れる！♡♡♡ あゝ♡
ああんっゝ！！♡♡♡ ……んにゃあゝ あゝ ああゝ あゝ んっゝ♡♡♡」

ぶるっ♡ぶるっ♡ っと震える女体♡
汗がボワッ♡と噴き出す♡ 甘酸っぱい匂いが、一気に強くなった♡♡

「んにゃっ♡ にゃあああっゝ ……♡ うう♡ しっこ出す♡ むほお♡
見ないでえっ♡ 猫ションするところ、見ないでえっ♡ にゃあんっ♡
恥ずかち♡♡ うう～っ♡ おちっこびゅー♡♡♡ 女の子の膀胱お射精♡
びゅるるー♡♡♡ によほほほお～～っ♡♡♡」

スカートがたっぷり吸収したのか、見た目上のダメージは少ない。
むわっ♡と濃い匂いがして、漏らしたのだな……♡と悟った♡

顔を真っ赤にしながら、むくり♡と起き上がった牡丹は、涙目になってい
る。
普段はしっかりもので、クラスを引っ張っていくような存在なのに♡
「うう♡」 っと泣きながら、おしっこ漏れちゃったあ……♡と報告してくる♡

「頭撫でてえ♡ よちよちしてえっ♡♡♡
おしっこほめて♡ 赤ちゃんなら褒めるでしょ？♡
おしっこできて偉いね～♡って♡ 言っっ♡ たくさん出せて偉いね～♡って
言っっ♡♡♡」
「えっ、偉いぞ～……♡ よしよし～……♡」
「ううっ♡ パパあ♡♡♡ しっこいっぱい出たあ……♡♡♡ えへへえっ♡♡♡」

たとと頭を撫でられて、メンタルが回復したのか、立ち上がり、スタス
タと洗面所に向かってしまった。

戻ってきた牡丹は、部屋着になっている。ダボっとしたトレーナーに、短い
ハーフパンツ。

ラフな服装だが、こんな緩い状態でも、おっぱいのシルエットはハッキリと
浮かび上がっており、爆乳を隠しきれていない♡

お澄まし顔で「ふう♡」っと息をつき、隣に座った牡丹からは、やっぱりお風呂上がりみたいな熱気がムンムンに感じられて、いつもよりセクシーに見えてしまう……♡♡♡♡

「わかったことが二つあるわ。

性欲が高まると、猫になってしまう。猫甘えモードになると、もう何も我慢できない。本能のままに私は、泰正に甘えてしまうわ。

もう一つ。ある程度性欲が満たされれば、段々と頭が冴えてくる。

雄でいう賢者タイムに近いものかもしれないわね。……あるいは、おしっこチビって、冷静になっただけかもしれないけど」

「どちらにせよ、異常事態だから、病院には行こうね……。

今から空いてところが無いか、探してみるよ……」

「……このままでもいいんじゃないかしら」

「えっ、いやっ、そんなことはないんじゃない——」

じっ……♡っと見つめられて、言葉をさえぎられる。

猫耳が、ぴくぴく動いている。それを見て、可愛いな——と思っていたら、キスをされてしまった。

突然のことに動揺して、身を引いてしまったが、それを予測していたみたい
に、背中に腕を回される♡ ギゅ♡っと抱き寄せられて、唇が潰れた♡♡

「んむちゅっ♡ ペろペろっ♡ んふ——♡ んふ——っ♡♡♡

いいじゃない♡ ちゅっちゅ♡ このままでっ♡ ちゅう♡♡♡

猫になった私は嫌い？♡ 嫌いじゃないわよね♡ ちゅ♡ だってほら♡

ちんぽ——勃起してるもの♡ ちゅっちゅ♡ もお♡ 男の子なんだから、性欲に素直でいいのよ？♡ ちゅ♡♡♡

私が慰めてあげる♡♡ 泰正の、おち♡ん♡ぽ♡ んふふっ♡ じっとしてなさい♡♡

猫撫でモードの私が、気持ちよお～くご奉仕ぬきぬき♡

してあげるわ♪♡ 嬉しいでしょ？♡♡♡」

「あ♡ あっ♡ ダメだよっ♡ 牡丹っ——んっ♡」

「ちゅ～♡ ペろペろっ♡ ちゅぱっ♡ ぬとおっ♡ ぷはあっ♡

うっさいわね♡ ちゅっちゅ♡ もお動き出したら止まんないのよ♡

性欲暴走列車♡ アウトコントロール♡ 操縦席には、性欲丸出し猫が座っています♡ お客様は安全確認のため、その場から動かず、駅員の指示に従ってください♡♡ ほっ♡♡♡ ほ——っ♡♡♡」

すっかり脳みそが茹で上がってしまったようだ♡♡♡

ムラムラの、興奮した様子の♡ 鼻息の荒い女が、雑にズボンを脱がせてくる♡♡♡

ソファに押し倒されて、抵抗できない♡ パンツも脱がされて、勃起したちんぽが勢い良くブルンッ♡っと跳ねた♡♡♡

「おっほ♡ 出てきた出てきた♡ 汗くっさいちんマラ♡ んほお♡
すんすんっ♡ おほっ——♡♡♡ やっ……べえ～～っ♡♡ これキくう♡
んほんほおっほお♡ にやおおおんっ♡♡♡ にやにやおおおんっ♡♡♡」
「ちよっとっ♡ 牡丹っ♡ くすぐったいよっ……♡♡♡
鼻息、当たってるからあっ♡ ひゃあんっ♡♡♡♡」
「むほむほっ♡ すんすんっ♡ ごめんなさいねんほ♡ でも♡
我慢できないわ♡ にゃあん……♡ すっごい魅力的な香りだもの♡
んほっ♡ おほ～♡ やっべ～♡ すんすん♡ おっほ♡ キマる♡
キマっちゃうんほお♡♡♡ ほへ～すんすんすんっ♡ ぷはあっ♡
昔から良い匂いだと思ってたのよ♡ あんたのこと♡ すほっ♡ おほっ♡♡♡
ねえこのペニス♡ 良い匂いのちんマラ♡♡♡ しゃ、しゃぶってもいいわよ
ね？♡

猫のザラついた舌で、あんたのちんぽ……♡ メロメロにしてあげる……ん
へえ～♡♡♡♡」

「ちよっ`……♡♡♡ おわっ`♡♡♡ くうっ`……♡♡♡
んぎっ`♡ ぎもちいっ`……♡♡♡ ほへっ♡ ああくっ♡ く～っ♡♡♡」

ぺろぺろ♡ と、ざらざらの部分で裏筋を舐め舐めされると、くすぐったく
て腰が浮いてしまう♡♡♡♡

身長差があるため、ぐぐっ♡と腰を抑えられると、逃げられない♡ くすぐ
ったくてもどかしいのに、快楽をどこにも逃がせない♡♡♡

亀頭♡ 竿♡ 根元の部分まで♡
全部が気持ち良い♡♡ 全て高水準♡♡♡
今まで自分の手でしか、ちんぽをシコった経験が無い泰正にとって、いきな
りの猫舌は、かなりジャンキーだ♡♡♡

「んほっ♡ おほっ♡♡♡ ダメえ牡丹っ♡ それ出ちゃう♡♡♡
イっちゃうからあっ♡♡ はあんっ♡♡♡」
「ちゅっちゅ♡ ダメよ♡ ペろおっ……ちゅっ♡
まだこっちを味わってないわ……♡♡ んほほ♡ やっべ♡♡♡
すごいわ♡ 金玉の袋♡ もちもちしてて、たぷたぷね？♡♡♡
ここで赤ちゃんのお種さんたちを、ぐつつらえっほいと煮込んでるの？♡
それってエロすぎるわよね？♡ 金玉舐め溶かさずにいられなくなっちゃう
わよ♡♡ んほっ♡♡♡ ちゅ～♡♡ ペろぺろ♡ おほ～～っ♡ くせっ♡♡♡
くっ……さっ♡ けほおっ♡ ふ～～♡♡♡ ヤバッ♡ 脳汁ぷしゃ♡ってなった
わ今んほお♡♡♡ にやっ♡ にやっ♡♡ 金玉しゃんにやっ♡ 転がすう♡
んほおっ♡ 猫だから動くおもちゃには目が無いのにゃあ♡♡♡」
「あっ♡あっ♡ ダメダメそんなに擦ったらっ♡ あんっ♡あんっ♡
出ちゃうってばっ♡ 牡丹っ♡♡♡ んほおっ♡♡ ちんちんゴシゴシしないで♡
のおおおっ`！♡♡♡♡」

「ちゅっちゅ♡ なんれよっ♡ ぷほおっ♡ なんれらしょーとすうわけ？♡
ちゅっちゅ♡ あたちのお口まんこで♡ イキたくないのお？♡
ちゅちゅぺろおっひゅ♡♡ おっひゅ♡♡♡ ねえ♡ たっぷりと啜えて、唾だらけのホカホカお口便所で、搾り取ってあげるわよお？♡♡♡」

金玉からなぞりあげるみたいに、付け根から裏筋、先っちょをれるんっ♡つと舐められる♡ 腰がビクビク♡つと跳ねてしまった♡♡♡♡
金玉を揉みほぐしながら、パクッ♡つとちんぽを啜えて、ひたすらに舌愛撫をくりかえす♡♡♡ 啜えられたちんマラが、弱点をゴシゴシと削られて、悲鳴をあげている♡♡♡

「によほおおおゝ イクイクイクッゝ♡♡♡ んひゃあああ出ちゃうッゝ♡♡♡
あゝ♡ ダメほんとにイクイク♡♡♡ イクイクッ♡♡♡ 牡丹っ♡♡♡ 牡丹！♡
んあゝ あゝ あゝ あゝ ンッゝ！！！！♡♡♡♡」

——どびゅっ♡♡♡ びゅぽぽっ♡♡♡♡ びゅるるるる——っ！！！！♡♡♡

牡丹の喉奥めがけて、べちこんべちこんっ♡つとザーメンを解き放つ♡
射精を受けた牡丹のお口は、じゅるるっ♡つとちんぽにしゃぶりついてきて、空気が抜けてピタピタッ♡つとちんぽにへばりついた♡♡♡
おかげさまで、まんこみたいにぎゅっぎゅ♡つと搾り取られてしまう♡ 射精中に、ザラついた舌が筋に当たって、思わず泣いてしまった♡♡♡

「んひゃっ♡ あっ♡♡ おゝ~~ぎもちいっ♡ うっ♡うっ♡♡
きもちいっ♡♡♡ ぎもちいよおおっ♡♡ はひゅうっ♡！！♡♡♡」
「んごっ♡んごっ♡ごきゅっ♡……♡♡♡ ……じゅるるるる！！♡♡」
「ほっ！？♡♡ まだ吸うのっ♡！？♡♡
もういったっ♡♡♡ いったからあっ♡！！♡♡♡」

気持ち良すぎて、腰をビクビク震えさせて逃がそうとするが、首を横に振って「うゝ~~♡♡」と威嚇されてしまう♡♡♡♡
必死に踏ん張って、くすぐったさを我慢すると、丁寧な舌をなぶりつかせて、じゅろろろろ……♡つと、たっぷりとザー汁を吸い取ってくれた♡♡

じゅぽぽぽぽぽ——きゅぽんっ♡♡♡♡

大袈裟な音を立てて、ちんマラを解放する♡♡♡
口いっぱい頬張ったちんぽ汁を、耳元でごきゅりッ……♡♡つと嚥下した♡♡